

若年者の人材育成に対応したキャリア形成支援 —宇都宮大学の取り組み—

宇都宮大学教授・キャリア教育センター長 宮崎 冴子

1. 目的

21世紀を生きる若者には、急激な人口減少、終身雇用の崩壊、実力重視等、激変する時代にしなやかに対応できる能力が求められている。そのために、入学当初から「生き方を考えた進路選択」へと発想を転換し、学生主体のキャリア形成を可能にするための人材育成を行う。

2. 背景

進路先未決定のまま卒業する学生や、「仕事が自分に合わない」「自分の能力・適性が分からない」という早期離職者には、すでに在学中にその兆しがみられ、従来の該当年次対象者への指導では限界があることに鑑み、4年一貫キャリア形成支援体制を整備・拡充することが緊急課題である。そのために、全ての教育活動をキャリア教育の視点で組み直す必要があり、その実現が問題解決に繋がる。

3. 取り組み内容

全学共通キャリア教育と学部キャリア教育、及び全学型プロジェクトの3本柱により、同窓会及び地域社会、企業等との連携を図りつつ、4年一貫・学内横断の人材育成を行う。

(1) 全学共通キャリア教育：キャリア教育センターを中心に企画・立案・調整する。

授業モデル：正課授業「人間と社会」「キャリアデザイン」「ベンチャー起業論」「実務研究(イベント企画、商品開発)」「インターンシップ」「ボランティア」の授業モデルを作成する。

4年一貫プログラム：全学共通キャリア教育が目指す「人間観・職業観の醸成、アイデンティティの確立、コミュニケーション、問題解決能力の育成」等を勘案し、専門教育と連携した系統的な4年一貫プログラムを作成する。

インターンシップの概念プログラム：学部専門科目との接合や自由科目等によるインターンシップの検証を行い、構造的な概念プログラムを作成する。

三者評価(学生・教員・実習先)ときめ細かな指導：インターンシップを、自分の生き方について考え、進路決定する機会と位置づける。事前研修では、人間関係、

企業倫理、個人保護条例、ビジネスマナー等、事後研修では実習先への礼状作成、実習報告、知見に関するレポートを再度作成するなど、きめ細かな指導を取り入れた三者評価体制を構築する。

全員履修化への推奨：キャリア教育を「生き方教育」と位置づけて、人間観・職業観の醸成を促すために、授業科目「人間と社会」「インターンシップ」の全員履修化を推奨する。

(2) 学部キャリア教育：キャリア教育センターは、「ものづくり創成工学センター」「教育実践総合センター」等と連携し、学部オリジナルのキャリア教育のニーズに応じてバックアップする。

(3) 全学型プロジェクト：学内横断事業として多様なプロジェクトを実施する。

国際キャリアセミナー：国立大学法人で唯一の国際学部を有する本学の特色を活かした合宿形式の「国際キャリアセミナー」を開催し、国連機関、外務省、NGOから講師を招聘して、国際分野で活躍できる人材を育成する。

相談事業の連携：学生の多様な相談に対応できるように、キャリアアドバイザーや学生相談室、保健管理センターのカウンセラーと連携し、多角的分析・情報交換を行い、学生をフォローアップし、支援する。

本学OBとの懇談会：同窓会との連携により、各界で活躍する本学OB等の体験談やパネルディスカッションを通じて、学生のキャリア意識を啓発する。

起業家育成：学生が自ら企画するユニークな独創的研究・調査を助成し、専門家等によるサポート体制を整備し、支援する。

地域社会との連携：学外実習、社会貢献として、ボランティア活動を支援する。

キャリアフェスティバル：キャリア教育の理解と普及を図るため、学生、保護者、市民、企業等に参加を呼びかけて、キャリアフェスティバルを開催する。なお、オープンキャンパスと同日開催とし、高校生にもアピールする。

キャリアアップ講座：資格取得の機会を増やすため、キャリアアップ講座を開設すると共に、その内容を検証する。

4. 取り組みによる教育的・社会的効果

多角的・構造的な4年一貫プログラムの展開により、入学当初から「自分らしい生き方を考えた進路選択」へと発想転換し、学生が自力で能力開発することが可能になる。そのことが自己理解を促し、学習意欲を高めるとともに的確な進路決定に繋がるため、期待される教育的効果は大である。また、勤労観・職業観の醸成、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力等の職業人基礎能力を備えることが、ニート、フリーター、早期離職の防止等の問題解決に繋がり、社会的効果も大きい。